JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	2012年度アドバイザー会議報告
Author(s)	鍋田，智広
Citation	CGEIアニュアルレポート 2012: 261-265
Issue Date	2013-09
Type	Research Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/11529
Rights	
Description	III. センター関連イベント報告 / Event Report，(3) アドバイザー会議 / Advisor Meeting

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

＜報　告＞

2012 年度アドバイザー会議報告

鍋田智広（大学院教育イニシアティブセンター特任助教）

A Report for Advisor meeting

Tomohiro Nabeta
(Research Assistant Professor, Center for Graduate Education Initiative)

Abstract : In this year, Center for Graduate Education Initiative (CGEI) had opportunities to discuss on higher education in graduate school. At the first meeting CGEI invited Professor Ono (Graduate School of Information Science and Technology, Hokkaido University). In this meeting we talked about history of JAIST since Professor Ono know early JAIST because completed the doctor course in JAIST about 20 years before. The second meeting was held by inviting Professor Hata (Office of educational planning and research, Ehime University). At this meeting Prof. Hata discussed on how does CGEI staff settles on rubric evaluation for educational assurance. In this topic we talked about communication between center or department of education and faculty in university. Prof. Hata emphasized importance of independence of the center. Third meeting we invited Chikada associate professor (Center for the studies for higher education, Nagoya University). Chikada talked about one of educational initiative in Nagoya University. He has dealt with publishing and distributing educational handbook. Fourth meeting we invited Professor Nakabayashi (Department of Information and Network Science, Faculty of Information and Computer Science, Chiba Institute of Technology). Professor Nakabayashi talked about his educational practice in lecture from perspective of company because he had long been in company. He conducted lecture and educational practices focused on reasoning for motivating students. In 2012 CGEI have many opportunities for meeting various advisors, this are effective to promote our mission of quality assurance for graduate education.

[キーワード：高等教育，アドバイザー会議，質保証]

1　第 9 回アドバイザー会議

1.1　アドバイザ：小野哲雄教授(北海道大学　大学院情報科学研究科)

1.2　場所：総合研究棟 3 階

1.3　日時：平成 24 年 5 月 18 日

1.4　概要：

去る５月１８日に総合研究棟センター居室にて，CGEI のアドバイザーである小野哲雄教授（北海道大学大学院情報科学研究科）を招き，第９回アドバイザー会議を開催した。小野教授は，情報科学研究科の１期生であり，本学修了後も ATR 研究所やはこだて未来大学，北海道大学といった様々な機関で教員として，教育・研究を行っている。教授によれば，JAIST のコースワーク重視や厳密な評価，複眼的研究システムといった制度は JAIST 創立時代から現在まで変わらず継続しており，本学の教育の根幹をなすものであり続けているとのことである。こうした指摘を受けて，教授とセンター教員との間で JAIST がこのような JAIST のコアを維持しながら，前向きな変化を継続させるにはどうしたらよいのかについて，例えば３人指導体制や，クォーター制などの具体的事例を取り上げて議論が活発になされた。

小野教授が指摘したように，JAIST 建学時の精神を反映した先進的教育システムは今なお先端的であり誇るべきものである。グローバル化が急速に進むなかで，教養教育の拡大や研究室教育の充実といった新しい取り組みをどのように JAIST の教育に組み入れるべきかを提案することは喫緊の課題であり，本センターが果たすべき役割の大きさを実感させられた。

2　第 10 回アドバイザー会議

2.1　アドバイザ：秦敬治教授(愛媛大学教育企画室　副室長)

2.2　場所：総合研究棟３階

2.3　日時：平成 24 年 11 月 26 日

2.4　概要：

アドバイザーの秦教授は，理事と既に本学の教育システムについての紹介を受けたとのことで，浅野センター長から本学教員の挨拶と，各ユニットとミッションの紹介から会議を始めた。会議では，CGEI で研究室教育ポリシー設立に向けて進めていること，試験問題のデータベース化により，講義における学生との相互作

用を通した基準の明確化や，自発的な教育の支援が目指されていることが議論された。話題は研究室教育の質保証について，ルーブリックの有効活用，教育の質保証についての愛媛大学の取り組み，さらには JAIST の問題意識といった様々な点に関して活発な議論がなされた。

ルーブリックについて以下のような議論がなされた。以下にまとめる。

ルーブリックの構築・質保証に向けての愛媛大学の取り組みを行った。

1. 企画室というのは，教育に関する機構である。設立前はセンターという名称も検討されたが，他のセンターと横並びにせず，トップダウンの色を強く示すという意図でこうした名称になった。
2. 教育コーディネータと呼ばれる教育担当の教員を研究科などの組織単位で選び，教育についての取り組みのミーティングを行っている。
3. 教育コーディネータは全学でおよそ 70 名，今年はこうしたセミナーを年に 5 回開催する。
4. こうした取り組みに積極的に参加してもらうためには，呼ぶ側が，教員の困難に取り組み彼らの力になるよう努力していることを知ってもらう必要がある。今のところは，企画室と教員の関係性はうまくいっている。
5. トップダウンの機構が一般教員と良好な関係性を作るには，上記の努力している姿勢を見せることと，間を接続するハブの役割を教員につくること（教育コーディネータ）である。彼らとの関係性を念頭に置いて動くことが大切。

3　第 11 回アドバイザー会議

3.1　アドバイザ：近田政博准教授（名古屋大学　高等教育センター、大学院教育発達科学研究科高等教育学講座）

3.2　場所：総合研究棟 3 階

3.3　日時：平成 25 年 1 月 28 日

3.4　概要：

1 月 28 日午前、センター居室にて、本センターアドバイザーの近田政博准教授　(名古屋大学　高等教育センター、大学院教育発達科学研究科高等教育学講座)をお招きし、第 11 回アドバイザー会議を開催した。近田准教授は、大学院での教育を専門とし、多くのガイドラインを作成している。それ

らの幾つかを実際に見ながら、センターの研究室シラバスを中心に進めている研究室教育についてお話を伺った。研究室では学生は教員と密接に関わりながら専門知を身につけていく。こうした独立性は尊重しながら、機構が研究室での教育や学習を支援するには、個々の学生や教員の悩みや困った点を念入りに聞き取り、それに応えられるような試みをすることが大切であるとのことである。例えば、近田准教授が最近作成した留学生受け入れハンドブックでは、留学生や大学の窓口のスタッフではなく、教員の悩みや負担を軽減することを特徴としている。このハンドブックは、教員や留学生の実際にあった実例を元に作成されており、読み手の注意を惹くものとなっている。本学においても既に2年間研究室の実態調査を実施しており、教員と学生の双方から有意義な言語データを得ている。こうしたデータを活かして我々のセンターなりのガイドブックを作成することが大切であろう。

4　第 12 回アドバイザー会議

4.1　アドバイザ：仲林清教授（千葉工業大学情報科学部教授）

4.2　場所：総合研究棟 3 階

4.3　日時：平成 25 年 2 月 27 日

4.4　概要：

2013 年 2 月 27 日、千葉工業大学情報科学部教授で本センターアドバイザーの仲林清先生をお迎えし、第 12 回アドバイザー会議が開かれた。仲林先生は、教育工学、技術標準化を専門とされている。会議では、主に国際的通用性を備えた修了基準とコースワークについて話し合われた。国際的通用性については、査読付き学術雑誌についての率直な意見が交わされた。コースワークについては多くの意見が出された。例えば、試験問題、予習・復習に関連した反転授業（Flipped Classroom)、クリッカーを用いた講義などである。試験問題については、本センターにてアルゴリズム分野の試験問題を全世界的に収集し、データベースを現在構築している。反転教室とは、講義前に e-ラーニングなどを利用し、従来の座学による講義を終え、講義時間にはグループワークなど応用を行う講義方法である。本学においては ICT ユニットが過去の講義内容を収集しており、今後反転教室の運用も可能である。クリッカー（Clicker)とは、受講者に選択式の小テストやアンケートを実施し、その場で結果を示すことが可能なシステムである。理解の確認だけでなく参加意欲を向

上させるツールとして近年注目されている。本センターにおいても、過去にクリッカーの紹介を行い、貸し出しも行っている。本学は開学当初から、研究室教育だけでなくコースワークにも力を入れており、さらなる向上のため新たな試みについても期待されている。